

# 小さなからこそ、 キラリと輝く“山北町”

—豊かさど安心を実感できる町づくりの取り組み—

川北町総務課



手取川と雲峰白山

## 町の概要

川北町は石川県加賀平野のほぼ中央部に位置し、雲峰白山を源とする手取川の右岸に沿って拓かれた面積14,64㎢、人口約6,300人の町です。手取川のもたらす豊富な水と肥沃な土壌により、県内有数の穀倉地帯として発展してきましたが、昭和59年に誘致した松下電器産業(株)(現(株)ジャパングアイスブレイ)石川工場をはじめとする企業誘致により、農・工・商のバランスのとれた町づくりを進めています。

川北町では、以前から上・下水道料金(別記1)や保育料など、公共料金の低廉化に努めており、さらに、平成9年度以降、後述する少子化に係る各種施策のほか、人間ドック・脳ドック・PET検診に対する助成制度(別記2)、高齢者医療費助成事業、高齢者に対するインフルエンザ予防接種の無料化など、一人一人にあったきめ細かい福祉サービスの充実を図ってきました。そして、それらの施策が呼び水となり、町の人口は飛躍的に増加しました。

毎年、8月の第一土曜日に開催され、今年30回目



川北祭り

を迎えた「川北まつり」は、今では北陸の夏の風物詩として定着しております。夕やみ迫る頃、会場の手取川筋易グラウンドは2,000人を超える町民の「送り火」が照らし出され、高さ46mの「大かがり火」に点火されると、炎は天をも焦がさんばかりに赤々と燃え上がり、それとともに打ち鳴らされる町内17地区の「虫送り太鼓」の華麗なる競演で、まつりは最高潮を迎えます。

もう一つの目玉は、北陸最大級の大火火大会です。尺玉や創作花火、超ウルトラスターマインなど2万発の花火が打ち上げられ、頭上で鮮やかに開く大輪と体に響く花火の音は、多くの観客を魅了します。



地ビールのグランアグリ

また、大人ひとり200円で入浴できるサウナ付きの温泉施設「ふれあい健康センター」は、一日平均900人以上が訪れる図書館を併設したユニークな施設です。

特産品としては、一七八九年

から漬かされている「加賀雁皮紙<sup>カガガニカシ</sup>」や豊かな大地に育まれた「いちじく」とそれを原料とする「いちじくジャム」。それに「地ビール」などがあり、いちじくジャムを使った味噌で味付けをしたご当地グルメの「かわきた味噌豚<sup>カワキタミソウ</sup>どん」は、大変好評です。

そして、常陸の剣豪、塚原卜伝<sup>ツカハラウツヅミ</sup>と槍で仕合をして勝ったと伝えられている戦国時代の剣聖「草深甚四郎<sup>クサカシシヨウ</sup>」を生んだ剣豪の里としても知られており、毎年